



道頓堀川の改修工事完了

美しい水を誇々とたたえ、道頓堀情緒たっぷりだった道頓堀川も、戦後の急速な町づくり、目覚ましい工場の発展の余波を受けて、現在全く汚濁した河川になっている。

本工事は道頓堀川の上大和橋～大黒橋間約 1.2 km の既、地盤沈下により低くなった地盤を高潮から守るため、防潮堤をかためた護岸を築造するとともに、沿岸家屋から河川に流出していた下水をすべて道路裏の公共下水道に接続し、河川の浄化もあわせて計るものである。護岸の天端は幅 4 m とし、植栽を行ない、また光り高欄(照明)を設けて、美しい緑と水の町づくりを行な

うよう配慮した。大阪市では本工事の完成と相まって、河の干涸の差を利用して、既設の可動せきを運転し、市内河川の浄化に努めている。

なお、本工事の概要はつぎのとおりである。

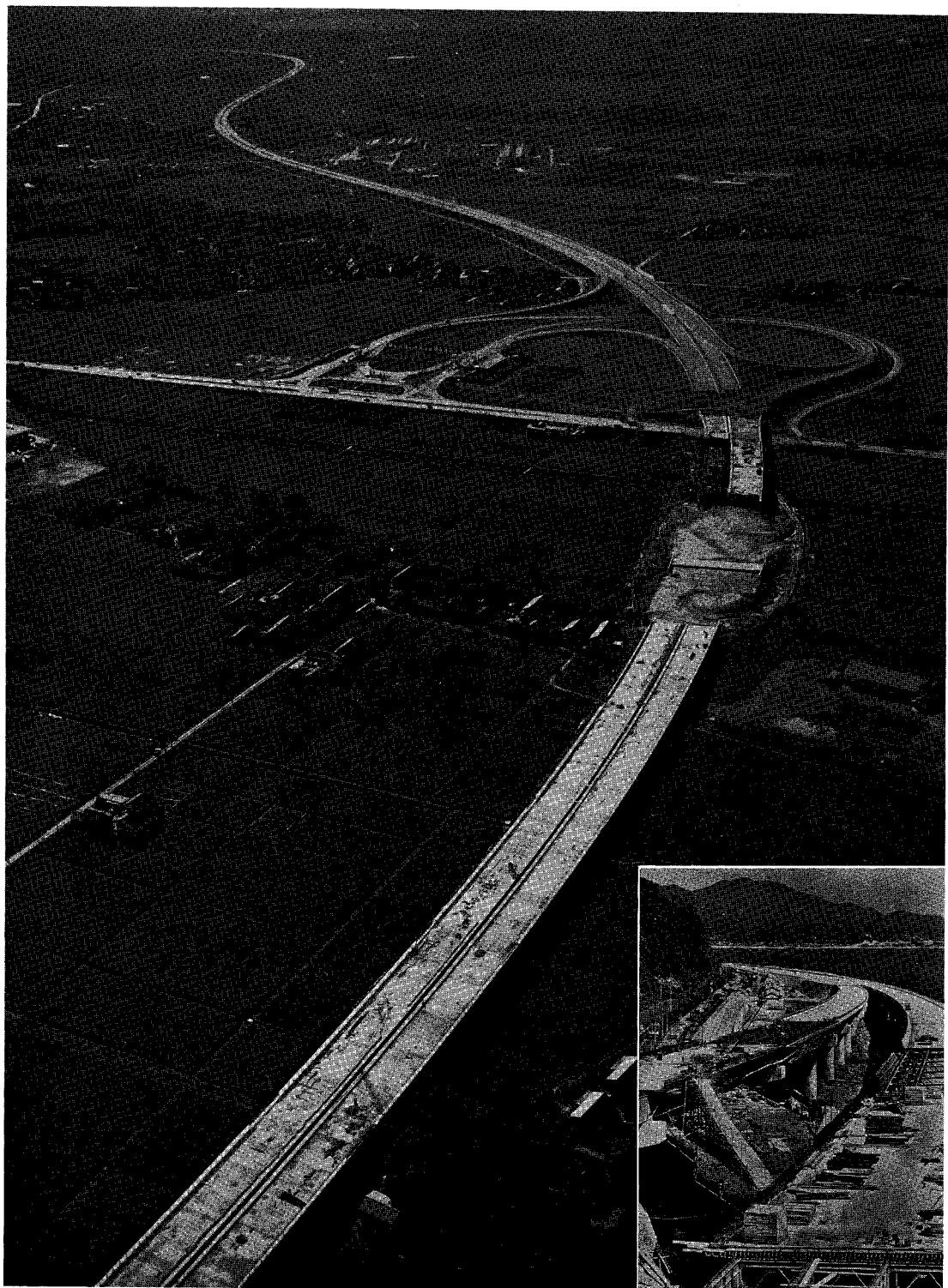
工事場所：大阪市区大和町一～大黒門町
 事業費：18億 4 000 万円
 護岸延長：2 003 m
 工期：昭和 41 年 3 月～昭和 42 年 9 月
 発注者：大阪市土木局

主要材料：鋼矢板（マリーナ）六糖 U₂ 型 長さ 10 m 高さ III 型
 5 330 枚（3 172 t）、H 型鋼 H-300 × 300 × 10 /
 15 mm 長さ 12 m・1 324 本（1 454 t）、生コンクリート 8 691 m³、PCC 既 400 × 50 × 1 550 mm・
 11 400 枚

写真提供・大阪市土木局
 株式会社 熊谷組
 前田建設工業株式会社

東名高速道路建設 工事はすすむ

昭和 36 年に建設省から道路公団に引継がれ、同 38 年 10 月に施工令が出された東名道路の建設工事は、晩秋を迎えてますます盛んに各所で行なわれている。
写真上は、東名と名神が結ばれる小牧インターチェンジの施工現場、写真右下は、由比の工事現場である。



写真提供・朝日新聞社

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

最近の道路工学の傾向／伊吹山四郎

土木学会誌第 52 巻第 11 号, pp. 15~19, 昭和 42 年 11 月 (November 1967)

「特集・最近の道路問題」の巻頭論文で、題名の示すとおり世界の道路工学のうち、特にわが国の道路工学の水準に焦点を合せて記述してある。最近進歩にいちじるしいものがある道路工学分野のうち、1. 道路計画, 2. 幾何構造, 3. 土木の施工と軟弱地盤などの処理方法, 4. 路体の層構造的な研究, 5. 安定処理工法, 6. アスファルト舗装, 7. コンクリート舗装, 8. 路面の性状, すべりおよび平坦性, 9. 長大構造物, 10. 交通安全施設, 11. 道路交通の運用管理に関する施設等につき記述してある。

道路計画の現況と今後の課題／山根 孟・住友栄吉・村山幸雄

土木学会誌第 52 巻第 11 号 pp. 20~28, 昭和 42 年 11 月 (November 1967)

「特集・最近の道路問題」の中の報告論文で、計画部門について詳述している。本論文は三つの部分、すなわち、1. わが国の道路網とその整備 (山根), 2. 一般国道・地方道としての整備 (住友), 3. 都市の道路とその整備 (村山) からなり、わが国道路計画の現況を伝えている。

まず山根は、わが国全体の道路網について各種の統計を活用して報告している。住友は、一般国道・地方道について述べ、今後の課題にもふれている。村山は、都市内道路の持つべき特性とその対策につき、ユニークな論評を展開している。

世界の道路事情—その工学的, 行政的, 景観的特質—

／倉島 収・井上 孝・早生隆彦

土木学会誌第 52 巻第 11 号, pp. 29~44, 昭和 42 年 11 月 (November 1967)

「特集・最近の道路問題」の三番目に収録されている論文で、1. アメリカ合衆国 (倉島), 2. ヨーロッパの主要国 (井上), 3. 東南アジア諸国 (早生) の三論文からなっている。本論文にあっては、わが国の道路の実情を良く知るために特に企画した欄で、本論文を読むことにより、現在の世界各国の道路事情の大意が理解できるように配慮した。アメリカ合衆国については、道路政策的な観点から記述し、ヨーロッパ編ではフランス、西ドイツ、イギリス、イタリアの各国につき、その間の事情を説明している。東南アジアの諸国では、アジアハイウェイを中心にその実情と今後の問題にふれている。

高速道路の建設技術—その設計と施工—／比留間 豊

土木学会誌第 52 巻第 11 号, pp. 45~52, 昭和 42 年 11 月 (November 1967)

わが国の高速道路の建設の建設技術の水準を伝える「特集・最近の道路問題」の中の解説記事である。国土開発幹線自動車道建設法にもとづき 7600 km の高速道路建設を開始したわが国の道路建設技術を、高速道路を中心に記述した。本論文にあっては、1. わが国の高速道路の特長, 2. 幾何構造, 3. その他の計画設計, 4. 橋梁, 高架等の構造物, 5. トンネル, 6. 土工, 7. 舗装等につき簡明に記述している。

第 13 回国際道路会議の課題とプログラム／広川 楯吉

土木学会誌第 52 巻第 11 号, pp. 53~60, 昭和 42 年 11 月 (November 1967)

昭和 42 年 11 月 3 日から 15 日までの間、わが国で開催された第 13 回国際道路会議の会議内容と日程および諸プログラムを集成した「特集・最近の道路問題」の最終論文で、資料として登載した。本国際会議は、わが国で開催された土木分野では最大のものであり、わが国の道路事情を世界の諸国に知っていただく良い機会であった。本資料は、本国際会議のほぼ全容を伝えている。

PS コンクリート 3 スパン連続斜ホロスラブ橋の設計

／山根 巖・福山俊郎

土木学会誌第 52 巻第 11 号, pp. 61~65, 昭和 42 年 11 月 (November 1967)

日本道路公団東名高速道路名古屋建設局小牧第 2 工区の高根橋は、中央スパン 30 m, 側スパン 20 m, 幅員 12.75 m, 斜角 45° のホロスラブ 3 スパン連続橋で計画された。Asim Yeginobali は、さきに、V.P. Jensen の相対する 2 辺単統支持の斜板に対する手法を 3 スパン連続斜スラブ橋に発展させ、電子計算機による計算結果を実験によってたしかめているので、この方法の応用を企てた。すなわち、Asim Yeginobali の方法によって電子計算機 IBM 7090 に対してプログラムを作成し、格点のたわみ、および断面力の影響係数を求め、断面力を計算し、設計した。階差法による曲げモーメントの計算を中心に述べている。

トンネル工学シリーズ 3

第3回トンネル工学シンポジウム



体 載：B5判 本文146ページ
定 価：1000円（〒100円）
会員特価：800円

トンネル工学シリーズ 3

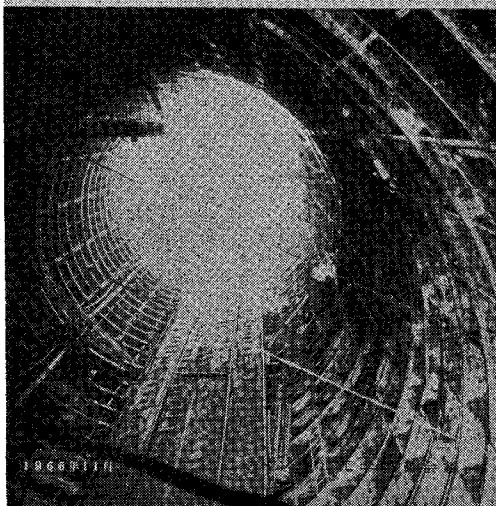
第3回トンネル工学シンポジウム

本書はトンネル工事シリーズ3として、最近のトンネル工学の問題点を解説するとともに、最近完成した栗子トンネルの報告や青函トンネルにおけるウォールマイヤー式トンネル掘削機の掘削試験、大阪・東京におけるシールド工事の実施例や計画・理況について解説してありますのでご一読下さるようおすすめします。

内 容 ■トンネル土圧／村上朔郎 ■トンネル土圧の測定方法と現況／高橋彦治 ■トンネル用鋼アーチ支保工の強度について／坂本貞雄・伊吹山四郎 ■トンネル掘削における余掘りの実態について／住友 彰・南部繁春・峰本 守・高山 昭・今西誠也・渡部 雅 ■セグメントの設計について／山本 稔 ■栗子トンネルの工事計画と施工実績について／山本 元 ■国鉄親不知トンネルの施工実績について／北村 章 ■青函トンネルにおけるウォールマイヤー式トンネル掘削機の掘削試験について／天野礼二 ■大阪地下鉄線複線型と単線型シールドの実施例と問題点／宮内義人 ■シールド工法における駅部の施工計画について／西嶋国造・遠藤浩三 ■わが国における中小口径シールド工事の現況について／中川義徳・松岡正次・吉川新吉

トンネル工学シリーズ4

わが国シールド工法の実施例・第1集



体 載：B5判 338ページ・表117・図218
定 価：2200円（〒100円）
会員特価：1800円（ " ）

トンネル工学シリーズ 4

わが国シールド工法の実施例・第1集

最近のシールド工事にはめざましい進歩があります。日本における最も古いシールド工事は大正6年5月から大正13年4月にかけて国鉄折渡トンネルにおいて行なわれました。それから約半世紀を経た今日まで日本では158件のシールド工事が実施されております。

本書では、この158件の工事例を、まず項目別に第I部から第VI部までをそれぞれ「工事概要」、「設計および実績」、「セグメント」、「シールドおよび附属機械」、「工事中機械その他」、「主要な図表類」とわけて分類し、つづいてこれらを企業別に「鉄道および道路」（計19件）、「下水道」（計53件）、「上水道」（計49件）、「電力および通信」（計30件）、「地下道その他」（計7件）に分け、これらを施工年次の古いものから配列し、巻末に付図として各データの相関関係がわかるように適宜プロットしたグラフを掲載してありますので非常に便利なデータブックであるとともに、シールド工事の歴史が一目で歴然とわかります。ぜひご覧の上活用下さるようおすすめします。

●待望の年鑑いよいよ完成

●11月20日より配本開始!

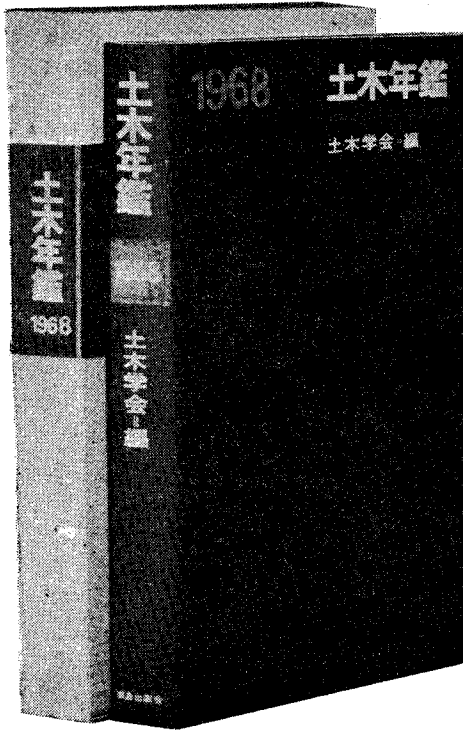
土木年鑑

1968

土木学会土木年鑑編集委員会編集・定価 3500 円/送料学会負担

■土木建設界のすべてを系統的に鳥瞰できるわが国唯一の年鑑!!

本年鑑の5大特色



①広い視野に立った編集方針

単に土木分野全般の記述だけでなく、経済・法制・財政・企業計画・他産業との関連などを捉え、総合的な展望も行なった編集

②斯界の権威を網羅した編集・執筆陣

土木学会がその総力を結集し、斬新緻密な構成にもとづいた各専門分野の権威による執筆

③豊富な内容、系統だった分類

各部門ごとにあらゆる事象を網羅し、精密な統計および図表を付し、詳しい解説を行なった、土木界のすべてを通覧できる唯一の年鑑

④見て楽しめるビジュアルな年鑑

新鮮な口絵写真、わかりやすい図版および解説写真を豊富に使用し、視覚的な面にも留意した編集

⑤美麗・堅牢な造本と鮮明な印刷

頻繁な使用、永年の保存にも耐えられる、厳選された資材・印刷・製本

■体裁

B5判上製函入/特織クロース装丁/口絵写真20余枚・本文中写真200余枚/本文8ポ新鑄活字使用・約500頁/写真・図版・統計表多数/アート紙および真珠アルトン紙使用

■土木年鑑編集委員会委員名簿

委員長	八十島義之助	副委員長	片山祐一										
主査委員	内山謙		竹内良夫		村栄二		森茂						
委員	阿部泰彦		粟津清蔵		岩永三樹男		大迫公克		大橋文雄		川村光雄		京坂元宇
	久保越		杉田栄司		高野宗司		多田安夫		大竹間弘		川村光雄		林鋼太郎
	樋口芳朗		日吉三友		藤井喬		藤田圭一		藤吉三郎		川村光雄		松本繁樹
	村山幸雄		森宜制		山下博通		山田俊英		山本安一		川村光雄		
幹事	市川芳忠		宇津橋昭八郎		成瀬輝男		南部祥一		本山森		川村光雄		

●土木建設界のすべてを系統的に鳥瞰できるわが国唯一の年鑑!!

■本年鑑の構成

口絵写真

本年度における代表的な土木事業27件の写真集

論 説

“曲り角に來た建設事業”——建設技監 尾之内由紀夫

本年度までの経過の分析から明日のあるべき姿の概要を記述

展 望

1. 社会の動き
2. 経済発展計画における土木事業
3. 行政と事業
4. 建設産業の動向
5. 研究および技術水準
6. 教育および技術
7. 海外事業

工学技術および関連資料

1. 長期計画
2. 研究と技術
3. 特許・実用新案
4. 主要報告書・論文目録
5. 関連学界の動向

事 業

本年度における主要土木事業を写真・図面・諸元に解説を付して紹介

国土計画・地域計画／道路／鉄道／都市計画・土地造成／上下水道・工業用水道・水資源／治水・治山・海岸／港湾・漁港・航路標識／空港／発電施設／土地改良・干拓／防衛施設／観光・レクリエーション施設／工場施設／建築／災害復旧／海外事業／諸調査

資 料

建設事業における基本統計・資料を網羅

国土・人口／建設事業量／治水・治山・海岸／道路／鉄道／港湾・漁港／都市計画／上水道・工業用水道・下水道／災害・災害復旧／コンサルタント・測量／建設業／建設機械／建設労務／建設資材／工事価格・土地価格／一般経済／新法令解説

付 1. 国の土木系機関一覧(新設) 2. 全国土木系大学所在および教官一覧 3. 全国都道府県別主要土木事業一覧図——各事業の42年度予算と事業概要(新設)

-----切 取 り 線-----

申 込 書

東京都新宿区四谷1丁目

社団法人 土木学会刊行物頒布係行

電話 351-5130 (直通), 振替口座 東京 16828 番

■申込者名

校名または会社名

所 在 地

担 当 者 職 名

担 当 者 氏 名

㊞

書 名	部 数	送 料	合 計
土木年鑑 1968年版 定価3500円	部	本票使用分のみ 学会負担	円

上記のとおり代金を添えて申込致します。

昭和 年 月 日

注：御送金のときは本申込書を同封願います。

手続上、前金が無理の場合には、請求書類の御必要枚数を御記入の上、学会まで御申込下さい。現品に書類を添えて御送り致します。